

海外ビジネススクール事情最前線

徐 驊、渡邊 聡

ビジネス科学研究科教授、ビジネス科学研究科助教授

1. はじめに

中国では、計画経済から市場経済への転換に伴い優秀な経営人材の育成と先進の管理技術の導入を国家的な戦略課題として、欧米における実務型経営人材の育成を重視したMBA教育が急速に発展してきた。他方で、米国ではグローバル化に伴う異文化マネジメント人材育成の重要性が企業家レベルでさげばれ、IMBA と称される国際 MBA プログラムが多文化組織経営人材の育成に重要な役割を担い始めている。

2. 中国ビジネススクールの発展と動向

1980年代には、中国の一部の大学はすでに欧米の大学と合作し、共同教育プロジェクトの形でMBA教育を行い、修了生には合作した欧米大学のMBA学位を授与した。同じ時期に、MBA教育を中国で展開するための諸問題、たとえば、教育目標、教育方式、入試方法、論文要求や学位の授与基準など

に対する調査研究も積極的に行われた。その結果、1990年10月、中国政府の國務院学位委員会がMBA学位（工商管理修士）の創設とMBA教育の試験的な展開を正式に決定した。1991年、中国を代表する清華大学など九つの大学にMBA学位課程の設置認可を与え、その後、1993年に17校、1997年に28校、2000年に8校、2003年に25校のMBA学位課程を次々と認可した。2001年7月、國務院学位委員会は過去10年のMBA教育の実績と2回に亘るMBA教育の開設校に対する評価に基づき、管理職に就きながら経営大学院で学ぶEMBA学位（高級管理人員工商管理修士）の創設も決定した。これを受けて、2002年から、北京大学など30の大学にEMBA学位課程の設置が認可された。

3. MBA教育の体系化

中国のMBAやEMBA教育は、欧米型カリキュラムの導入や吸収、中国型の教育プロ

グラムとの融合という各段階を経て発展してきた。MBA 先進国の長所を吸収し、中国における経済環境と融合する基本方針のもとで、MBA や EMBA 教育の体系化が進んでいる。以下の3点は、こうした融合政策の一部である。

(1) 教育プログラムの指導

1994 年全国 MBA 教育指導委員会が設立された。この委員会は、全国の MBA 教育を指導すること、例えば、各大学の MBA 教育プログラムの基準化、MBA 教育の水準の向上、産業界や海外 MBA プログラムとの交流と合作の促進等を目的としている。これに基づく具体的な施策として、教育管理制度、論文管理制度の指導と監督、MBA 課程の評価が行われている。

(2) 入学試験

世界の多くの大学と同じように、中国の MBA 課程の入学試験は筆記試験と面接試験の2つの部分から構成される。1997 年から、筆記試験は、試験科目から、出題、採点、選抜の基準まで、全国的に統一された。受験生は筆記試験の成績が全国的に統一された合格ラインに達していなければ面接試験を受ける資格もなくなる。筆記試験は MBA 教育の初期に存在した選抜基準のばらつきという問題を是正し、合格者の質を高める

役割を果たした。しかしながら、筆記試験は受験生の基礎学力を評価するもので、受験生の実務能力を必ずしも反映するものではない。そのため、豊富な実務経験を持ちながら、学校を卒業してからの時間が長いから試験に落ちる受験生が相当の人数に上がる。このため、合格者の低年齢化傾向が生じている。また、MBA とは違なり、EMBA 課程の入学試験は各校が独自に実施している。

(3) 教員の養成

中国の MBA 教員の多くは経済学、数学、工学等の専門領域からの出身者である。特定の専門分野において深い知識レベルに達しているが、MBA 教育に必要な知識の広さ、特に、企業経営に関する実務経験が欠けている。教員養成のため、全国 MBA 教育指導委員会が清華大学、復旦大学において MBA 教員訓練クラスを実施している。全国の各ビジネススクールの MBA 教員を MBA 教員訓練クラスに派遣し、外国の有名ビジネススクールの著名な教員、産業界の実務家からの教育を受講させる。一方、各ビジネススクールも積極的に外国の MBA 教員を招待し、自分の教員を外国のビジネススクールに留学させている。

4. 米国ビジネススクールにおける国際経営プログラム

後半では、2004年3月に訪問した米国ビジネススクール2校での調査および体験をもとに、米国トップビジネススクールにおける国際経営プログラム事情とその背景を述べさせていきたい。

(1) サウスカロライナ大学ムーアビジネススクール

U.S. News and World Report誌による全米ビジネススクールランキングの国際MBA部門で常に上位にランクされるムーアビジネススクール(Moore School of Business)を訪問するために、小さな空港に到着したのは2004年3月21日の夕方であった。典型的なアメリカの大学街で、周辺は車が無なければ日常の買い物にさえ困ってしまうほどの小さな街である。ここには国際的な雰囲気どころか、企業の建物すら見当たらない。この片田舎にあるムーアスクールが、アメリカ東部やカリフォルニアの名門ビジネススクールをさしおいて国際ビジネス分野においてトップランクされていることが不思議にさえ思えた、というのが本音である。

ムーアスクールは、サウスカロライナ大学出身でニューヨーク在住のDarla D. Moore女史からの2,500万ドルもの寄付金によって1970年代に設立された州立大学

のビジネススクールである。スクールの建物に入ると、まず壁に飾られた彼女の大きな写真に気がつく。さらに建物内を歩いていくと、さまざまな企業名が刻まれた幾つもの重量感のあるプレートに迎えられる。これらはすべて何らかの形でムーアスクールに寄付や援助を行っている企業であるという。多くの企業名の中に地元電力会社のもと思われるものを見つけたので尋ねてみると、この電力会社は建物内の電気配線やメンテナンスを全面的に提供しており、こういった企業からの援助がムーアビジネススクールの運営を円滑にしているのだという。

通常のMBAではなくIMBA(International MBA)に特化したムーアスクールの最大の特徴は、各学生が入学時に選択した専門地域・国にもとづいて、全員に20週間におよぶ海外インターンシップが課されていることである。IMBAの学生は通常のMBA科目のほかに、各自が選択した専門地域の言語とその地域・国独自の多文化社会や異文化問題を理論と実践の両面から学習することができる。多国籍企業の現地工場が点在するサウスカロライナ州において必然的にこのIMBAプログラムが生まれたといっても過言ではない。

(2) ペンシルバニア大学ウォートンビジネススクール

アメリカ東部ビジネススクールの代表格ともいえるウォートンビジネススクール(Wharton Business School)では、あらためてそのスケールの大きさに驚かされた。近代的な建物内部はオープンな吹き抜けになっており、何十室と連なるガラス張りのスタディルームでは、学生たちが真剣な表情でディベートしていた。廊下では足早に次の授業に向かう学生が行き交い、また教授に質問をしている学生の姿も多くみうけられた。

ローダーインスティテュート(Lauder Institute of Management and International Studies)は、ウォートンスクールから完全に独立したペンシルバニア大学大学院の国際マネジメントプログラムであるが、独自の修士課程を設置しているわけではない。国際キャリアを目指すウォートンの学生のみが入学対象となり、2年間の課程を経て通常のMBAと国際マネジメント分野の修士号(MA)を取得できるのがWharton-Lauder Joint Degreeプログラムである。

ローダーインスティテュートは、ウォートンビジネススクールの卒業生でありThe Estée Lauder社の会長であったLeonard Lauder氏からの莫大な寄付金によって1983年に設立された。The Estée Lauder社が海外

市場に進出した際に異文化組織マネジメントに苦悩する米国人マネージャーたちをみたLauder会長が、異文化理解と適応力のあるMBAを育成することの重要性を痛感したのがそのきっかけであったという。

5. おわりに

中国におけるMBA教育の特徴は、欧米からのキャッチアップ型導入だけに依存するのではなく、中国社会の特質や経済環境を考慮に入れた独自のカリキュラム開発や国家基準にもとづく教育の質の向上が図られている点にあるといえるだろう。他方で、米国では急速なグローバル化に伴い、異文化適応型の国際経営人材育成が重要な課題となった。多文化組織に対する理解とマネジメントが国際ビジネスでの成功に不可欠であるという企業家の認識が、現在のIMBAとよばれる国際経営プログラムに発展してきたといえる。

(しゅう ふぁ(シュウ ファ)/経営システム科学)

(わたなべ さとし/経営システム科学)